

6月1日から
連載小説

平城高出身の木下昌輝氏

秀吉の活

作・木下 昌輝氏
画・遠藤 拓人氏

奈良新聞社は今年10月に迎える「創刊70周年」に合わせて、新聞連載小説を復活させることになりました。6月1日付から、県立平城高校出身の歴史小説作家、木下昌輝氏による長編小説「秀吉の活」をスタートさせます。

真田丸ブームの中、関西になじみの深い太閤秀吉を「超凡人」ととらえ、貧しい尾張



の農民から天下人となるまでの道のりを「就活、婚活、奸活」といった「活」を切り口に描き出す、新鮮な味わいの歴史小説です。

作者の木下氏は、デビュー作「宇喜多の捨て嫁」がいきなり直木賞候補となり、選考委員からも高く評価された、今出版界で最も注目されている歴史小説界の新星です。木下氏は、幼少時から平城高校卒業までを奈良で過ごし、奈良の風土が歴史小説の世界へといざなったのかもしれない。挿絵は遠藤拓人氏です。

えんどう たくと
遠藤 拓人氏



若い人も楽しめる秀吉像に

【作家の言葉】

秀吉はこれまでも何度か描かせて頂きましたが、今回はその生涯を描かせて頂くことになりました。きつと新たな発見があるだろうと今から楽しみです。

ぜひ若い方たちにも楽しんで頂けるような挿絵にしたいらと思っています。

【略歴】1979年東京都生まれ。東京工芸大学大学院修了、セツモードセミナー修了。2004年ギャラリーハウスMAY A 装画コンペMAY A 賞受賞、05年ひとつぼ展入選。個展、グループ展多数。東京工芸大学助教、東京大学東洋文化研究所協力研究者、歴史文化工学会理事。

きのした まさき
木下 昌輝氏



凡人から英雄―「活」躍見て

【作家の言葉】

世の中には、さまざまな「活」があります。戦国時代、百姓から成り上がった豊臣秀吉がそうです。「就活」で信長と出会い、「婚活」で生涯の伴侶を得、「転活」で一部将から天下人に。「奸活」で晩年に子をもつけ、「終活」で人生を全うしました。天才ではない凡人秀吉が英雄になるまでを、さまざまな活を通して描きます。毎日連載される、秀吉の「活」躍、楽しみにしててください。

【略歴】1974年大阪府生まれ。幼少時から県立平城高校卒業までを奈良県で過ごす。近畿大学理工学部建築学科を卒業後、ハウスメーカー勤務、フリーライターを経て、2012年「宇喜多の捨て嫁」でオール讀物新人賞受賞。14年初の単行本『宇喜多の捨て嫁』が直木賞候補となり、15年に高校生直木賞、歴史時代作家クラブ賞新人賞、舟橋聖一文学賞を受賞。16年に咲くやこの花賞を受賞した。

2016年5月30日

奈良新聞掲載